

J **apanese text**

2011年 秋/冬号 日本語編

アート

文=白坂ゆり

p.118

服が結んだ交流
アーヴィング・ペンと三宅一生 Visual Dialogue

20世紀を代表する写真家のアーヴィング・ペンが、『ヴォーグ』誌上で初めてISSEY MIYAKEの服を撮影したのは1983年。「こんな見方があったのか」と驚いた三宅は、その後1987年から99年まで13年間にわたり年2回、パリコレクションで発表した服の撮影を、ニューヨークにいるペンに依頼した。その間、三宅は一度も撮影に立ち会わず、ペンもショーを見ることなく、自由な視覚的対話が続いたという。パリー東京ーニューヨークを行き来し、全撮影に立ち会った三宅デザイン事務所の北村みどりがディレクションする本展では、一連のプロセスをアニメーションで再現。ペン撮影、田中一光デザインのポスターを一堂展示するほか、大型プロジェクトも駆使して写真群を紹介する。

9月16日～2012年4月8日

21_21 DESIGN SIGHT

東京都港区赤坂 9-7-6

www.2121designsight.jp

(写真)

ISSEY MIYAKE コレクションポスター、1994年春夏コレクション

写真/アーヴィング・ペン

ポスターデザイン&タイポグラフィ/田中一光

Photograph copyright by The Irving Penn Foundation

世界への挑戦
草間彌生 Kusama's Body Festival in 60's 展

80歳を超えてなお精力的に制作を続けるアーティスト、草間彌生。彼女が世界に向けて第一歩を踏み出したのは

1957年のこと。ニューヨークを拠点に、水玉や網などのモチーフで埋め尽くした絵画やインスタレーション、全身を水玉で覆い「ハプニング」と呼ばれるパフォーマンスを、1973年に帰国するまで繰り返し続けた。ワタリウム美術館では、この時代の映像作品やドキュメント写真と、近年のインスタレーションなどを展示中だ。なお、2011年から2012年にかけて、ソフィア王妃芸術センター(マドリッド)、ポンピドゥーセンター(パリ)、テートモダン(ロンドン)、ホイットニー美術館(ニューヨーク)を巡る大規模な回顧展も開催中。また、年明け、大阪の国立国際美術館では新作絵画などを発表する。

11月27日まで

ワタリウム美術館

東京都渋谷区神宮前 3-7-6

www.watarium.co.jp

(写真)

アヴァンギャルドファッション 1970年 ニューヨーク

Photo by Thomas Haar ©Yayoi Kusama

視点を変えて

ヨコハマトリエンナーレ 2011 「OUR MAGIC HOUR—世界はどこまで知ることができるか?—」

港湾都市・横浜で3年に1度開かれる現代アートの国際展。4回目の今年は、横浜美術館と、物流倉庫を再生した日本郵船海岸通倉庫(BankART Studio NYK)をメイン会場に屋内外で展示。横尾忠則、ダミアン・ハーストラ79名の現代アーティストの作品を中心に、イサム・ノグチやルネ・マグリットなど横浜美術館のコレクションも一部加えて構成された。「OUR MAGIC HOUR—世界はどこまで知ることができるか?—」をテーマに、世界や日常の不思議、魔法のような力、神話、アニミズムなどを表現した作品を通じて、忘れ去られた価値観や、人と自然との関係について見直す。日用品を緻密なインスタレーションに変貌させる岩崎貴宏の作品など、視点が変わる驚きがある。

11月6日まで
 横浜美術館 神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-4-1
 日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)
 神奈川県横浜市中区海岸通 3-9
 その他周辺地域
www.yokohamatriennale.jp

(写真)
 岩崎貴宏《Out of Disorder(Complex)》2009年
 Courtesy of the artist and ARATANIURANO

変革するファッション 感じる服 考える服：東京ファッションの現在形

流行のサイクルを追いかけるよりも、着る人の人生に寄り添い、生き方が変わるような服に出会いたい。日本の伝統や足元を見つめ直すとともに、新しい時代のリアリティを追求しつつ、ユニークなクリエイションを展開している10組のデザイナーをピックアップ。オリジナルのテキスタイルを生かした服づくりを行うミナペルホネン(皆川明)やミントデザインズ(勝井北斗・八木奈央)、日本の美意識を掘り起こすマトフ(堀畑裕之・関口真希子)、ファッションを「衣服(クローズ)」としてだけでなく社会を変革する思想や活動としてとらえるリトゥンアフターワーズ(山縣良和)などを紹介する。現在進行形の日本のファッションデザインの可能性を探る。

10月18日～12月25日
 東京オペラシティ アートギャラリー 東京都新宿区西新宿 3-20-2
www.operacity.jp/ag
 2012年1月14日～4月1日
 神戸ファッション美術館
www.fashionmuseum.or.jp

(写真)
 ミントデザインズ 2011年春夏コレクション 写真提供/文化出版局

伝統と現代の融合 松井冬子展—世界中の子と友達になれる—

展覧会名にもなった《世界中の子と友達になれる》は、少女、藤の花、黒い帯状のスズメバチ、赤ん坊のいない揺りかごなどをモチーフに、緊張が狂気になる直前の、心が壊れる予兆を描いた絵画だ。油彩画を学んだ後に日本画に転向し、若手のなかでも第一線をいく松井冬子の、初の大規模な個展が開かれる。明治期以前の古典技法を研究し、現代の日本画に多い紙ではなく、絹本に天然顔料を用いて、恐怖やナルシズム、性など現代的なテーマを、繊細かつ挑発的に描いてきた。視覚表現を通じて、見えない精神的・肉体的な「痛み」に向き合う姿勢が共感を呼んでいる。新作に加えて、初期からの創作の魅力を描き下しや下絵なども併せて解き明かす。

12月17日～2012年3月18日
 横浜美術館 神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-4-1
www.yaf.or.jp/yma

(写真)
 《世界中の子と友達になれる》
 2002年 絹本着色、裏箔、雲肌麻紙 個人蔵(横浜美術館寄託)

心の復興 第8回ヒロシマ賞受賞記念 オノ・ヨーコ展「希望の路」Yoko Ono 2011

世界最初の被爆地である広島から、世界の恒久平和と人類の繁栄を願う「ヒロシマの心」を、美術を通して世界へ訴えるべく創設された「ヒロシマ賞」。その第8回の受賞者、オノ・ヨーコの受賞記念展が開催中だ。60年代から人々の想像力に働きかけ、観客が実際に参加する作品を繰り広げ、夫のジョン・レノン亡き後も平和運動を続けている。ヒロシマとナガサキ、東日本大震災の悲劇を経験した人々への鎮魂と、未来への希望の路を示す新作インスタレーションを展

開。オノは、人類の叡智と、いざというときに意識の奥から引き出される人間の超能力に賭けている。観客が願いをしたためて木に結ぶ《ウィッシュ・ツリー（願かけの木）》にも参加しよう。

10月16日まで
 広島市現代美術館 広島県広島市南区比治山公園 1-1
www.hcmca.cf.city.hiroshima.jp

(写真)
 ジョン・レノンとオノ・ヨーコ《戦争は終わった!》
 1969年 ニューヨークのタイムズ・スクエア

祈りがかたちになるとき 三館連携特別展 神仏います近江

琵琶湖を中心に四方を山に囲まれた近江(現在の滋賀県)は、奈良や京都に続く、神道美術や仏教美術の宝庫だ。この秋、3つの会場を巡りながら近江の宗教文化に触れる展覧会が開かれる。信楽のMIHO MUSEUMでは、最澄らによる、日本仏教の母山とされる天台仏教の確立までをたどる。瀬田の滋賀県立近代美術館では、平安から鎌倉、室町時代までの質の高い仏像を公開。大津の大津市歴史博物館では、仏教が広まる際に土着の信仰と折衷され、神と仏が融合した日吉大社にまつわる美術品を紹介する。なかでも僧侶の姿をした素朴な神像に心惹かれる。

9月3日～12月11日
 「天台仏教への道」
 MIHO MUSEUM 滋賀県甲賀市信楽町桃谷 300
 9月17日～11月20日
 「祈りの国、近江の仏像」
 滋賀県立近代美術館 滋賀県大津市瀬田南大萱町 1740-1
 10月8日～11月23日
 「日吉の神と祭」
 大津市歴史博物館 滋賀県大津市御陵町 2-2
www.biwako-visitors.jp/shinbutsu

(写真)
 重要文化財《木造大日如来像》(快慶作) 鎌倉時代
 大津市・石山寺蔵 撮影/寿福 滋

不思議な存在 イケムラレイコ うつりゆくもの

キャベツの頭を持つ男、すーっと浮かび上がり消えていく少女、岩の中にふと見える怪物……。 「私は自分自身のことを、芸術家というよりは媒体だと思ふことがあります。巫女のように、何かに動かされていると感じるんです」と語るイケムラレイコは、不思議な存在を創造するアーティストだ。70年代以降、スペイン、スイスと移り住み、現在はドイツのベルリンとケルンに拠点を置く。東洋の感覚と西洋の感覚を融合し、存在と無、自然と文明といった境界を超えるような世界観を持つ。そんな彼女の絵画やドローイング、テラコッタ彫刻約145点を展示する日本で初の本格的な個展が開催中だ。シンプルな素材による詩的な作品群に、か弱きものへの愛情が感じられる。

10月23日まで
 東京国立近代美術館 東京都千代田区北の丸公園 3-1
www.momat.go.jp
 11月8日～2012年1月22日
 三重県立美術館 三重県津市大谷町 11 番地
www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum

(写真)
 《黒に浮かぶ》1998-99年 豊田市美術館蔵 撮影/林 達雄

エンタテインメント

文=工藤素太郎、松丸亜希子

p.120

古都・奈良の色
朱花（はねづ）の月

「萌の朱雀」で新人監督賞を、「^{もがり}殞の森」でグランプリを受賞し、カンヌ国際映画祭と縁の深い河瀬直美監督。今年と同映画祭コンペティション部門で上映され、スタンディングオベーションで迎えられた新作は、河瀬の故郷である古都・奈良が舞台。万葉集に詠まれた飛鳥地方の3つの山を1人の女と2人の男に投影し、古代から連綿と続く人間の営みと感情の揺らぎを繊細に綴る。染色家の主人公・加夜子が好む、血のように鮮やかで儚く褪せやすい「朱花」。濃い緑がまぶしい田園風景、ゆっくり上る大きな月、小さな虫や鳥など、自然の豊かな色があふれる映像は河瀬監督自身が撮影したもので、過去と現在が交錯する神秘的な空気、その場の温度や湿度も伝わってくる。—A.M.

9月3日より、ユーロスペース、TOHO シネマズ 榎原ほか全国で公開
www.hanezu.com

(写真)

©2011「朱花の月」製作委員会

魔法のような時間
Theater Company ARICA「LOVE GAME LOVE」

パフォーマーの安藤朋子、演出の藤田康城、詩人の倉石信乃、プロデューサーの前田圭蔵、音楽家の猿山修らを中心に2001年に設立され、10周年を迎えるカンパニー。廃墟のような地下空間だったり、がらんとした倉庫だったり、ARICAの公演は会場に足を踏み入れた瞬間から刺激的だ。ライブ演奏と安藤の語りにより耳を澄まし、彼女の一挙手一投

足に目を凝らす。そして、緻密に仕掛けられた繊細な装置がやおら動き出し、魔法のような時間が訪れる。そんなARICAの新作は、大震災を経て立ち上がる「ラブゲーム」。11月は横浜トリエンナーレ連携プログラム「新・港村」内で上演、2012年2月初旬から中旬には次の新作「恋は闇／Love in Blind」も予定されている。—A.M.

9月27日～30日

森下スタジオ Sスタジオ 東京都江東区森下3-5-6

「LOVE GAME LOVE」in YOKOHAMA

BankART Life III / 新・港村 Café Live

11月3日

新・港村(新港ピア) 横浜市中区新港2-5

www.aricatheatercompany.com

(写真)

ARICA: KIOSK

photo: Katsu Miyauchi

30周年、そして解散
パパ・タラフマラ ファイナルフェスティバル

1982年、演出家の小池博史を中心に結成されたパパ・タラフマラ。ダンス、演劇、アート、音楽など、ジャンルを越境したユニークな公演を次々に生み出し、国内外で高く評価されてきたパフォーミングアーツ・カンパニーだが、30周年を機に、2012年3月に解散することが発表された。過去の代表作、チェーホフをベースにした「三人姉妹」、国境をテーマとする「島」シリーズの原点「島」、リクエストの多い名作「SHIP IN A VIEW」、子供も楽しめる童話シリーズ「白雪姫」を上演し、トークやシンポジウムも開催されるこのフェスティバルが、グランドフィナーレとなる。身軽になって原点に立ち戻りたいと語る小池の次なるチャレンジを期待して待ちたい。—A.M.

「三人姉妹」12月20日～22日
 北沢タウンホール 東京都世田谷区北沢 2-8-18
 「島」2012年1月13日～15日
 森下スタジオ C スタジオ 東京都江東区森下 3-5-6
 「SHIP IN A VIEW」2012年1月28日～29日
 シアター 1010 東京都足立区千住 3-92 千住ミルディス1 番館 10階
 「白雪姫」2012年3月上旬
 北沢タウンホール 東京都世田谷区北沢 2-8-18
<http://pappa-tara.com/fes>

(写真)

上・「島 ～ island」 photo: Hiroshi Koike
 左・「SHIP IN A VIEW」

命を懸けて守る 一命

江戸時代初頭、名家の扉を叩き、その門前で切腹を願い出た津雲半四郎。家老は彼に、数ヶ月前に同様に訪ねてきた若い浪人の話をする…。侍の生き様と死に様を、スタイリッシュでスペクタキュラーな3Dの映像美で魅せる三池崇史監督の新作。生活に困窮する浪人たちの苦悩、愛する者たちを命懸けでどう守るかというテーマは現代にも通じ、心に響く。「十三人の刺客」に続きジェレミー・トーマスがエグゼクティブプロデューサーを、彼と「ラストエンペラー」で組んだ坂本龍一が音楽を担当。歌舞伎役者の市川海老蔵が初老の浪人・半四郎に扮し、静かな佇まいの侍から一変、雪が舞う中で80人を相手に目力で威圧する立ち回りまで、圧倒的な存在感の怪演を披露する。—A.M.

10月15日より、全国で公開
www.ichimei.jp

(写真)

©2011 映画「一命」製作委員会

音楽と講義のライブイベント ぼくらの文楽

東京から新幹線と在来線で約3時間、縄文遺跡を復元した山形県の体験型施設「古代の丘縄文村」で、2日間にわたって開催される総合文化フェスティバル。音楽と講義の2ステージ制で、音楽ステージには、コトリング、タテタカコ、トクマルシューゴ、七尾旅人、LITTLE CREATURES、キセル、レキシ、栗コーダーカルテットら日本人アーティストが出演するほか、ポーランドのジャズバンドPink Freudも初来日する。写真評論家でさきこ文学研究家の飯沢耕太郎、東北芸術工科大学で教鞭を執る画家の鴻崎正武と三瀬夏之介、子供の環境教育が専門の農学博士・山崎裕ら、異なるジャンルのオーソリティーたちが出演する講義ステージも充実。—A.M.

9月17日・18日

古代の丘縄文村 山形県長井市草岡 2768-1
<http://bokuranobungaku.com>

(写真)

上・トクマルシューゴ
 右・コトリング

伝統を体験する 結城座 江戸糸あやつり人形遣い 入門塾

1635年には公演を行っていたという記録がある、江戸時代から続く伝統のある糸繰り人形劇団・結城座。ピアノ線や針金などを使う欧米のマリオネットと違い、柔らかい糸で人形を操る。古典だけでなく、シェイクスピア劇や新作も上演し、海外公演にも意欲的だ。劇団が開催する入門塾では、人形の実技のほか、日本舞踊や殺陣、セリフ術や鳴物、演劇史など理論の講義も行う。人形を人間のように動かし、演技ができることが目標で、そのために自分の身体がどのように

動いているかを意識するところからスタートする。人形をまっすぐ立たせるだけでも最初は難しいが、プロを目指す人も、糸操り人形を体験したい人も参加できる。講義は日本語で行われるが、学ぶ意欲があれば海外からの参加者も歓迎。
—S.K.

2012年1月まで開講中
結城座 東京都小金井市貫井北町 3-18-2

「乱歩・白昼夢」
11月8日・9日
渋谷区文化総合センター大和田 伝承ホール 東京都渋谷区桜丘町 23-21
12月3日
大阪府茨木市市民総合センター 大阪府茨木市駅前 4-6-16
12月5日
神戸アートビレッジセンター 兵庫県神戸市兵庫区新開地 5-3-14
www.youkiza.jp

(写真)
左・古典公演「本朝廿四孝」(2007年アヴィニヨン演劇祭)
右・入門塾の人形実技

江戸を感じる 大浅草観光祭

2012年5月、東京スカイツリーが開業。この最新の観光名所の足元にある浅草では、旧き日本、江戸を体感できる大浅草観光祭が開催される。今年11月に幕を開ける平成中村座は、江戸時代の浅草にあった芝居小屋・中村座を模した劇場。当時のように舞台と客席の距離が近い空間で、現代を代表する歌舞伎俳優たちによる公演が、演目を替えながら7ヶ月にわたり行われる。来年3月からはエンタテインメントの中心だった浅草奥山が再現され、劇場の外も江戸の町に変わる。当時を模した飲食店や土産物店が並び、日本の伝統的な曲芸や大神楽などの大道芸が披露される。
—S.K.

11月1日～2012年5月31日
浅草寺 東京都台東区浅草 2-3-1
隅田公園 東京都台東区花川戸
ほか浅草界限
www.e-asakusa.jp

(写真)
左・平成中村座 右下・浅草寺の夜景

心で感じるパフォーマンス が〜まるちよば サイレントコメディ JAPAN TOUR 2011

モヒカンにサングラスがトレードマーク。パントマイムをベースに、独自のパフォーマンス「サイレントコメディ」を作り上げる「が〜まるちよば」は、これまで28ヶ国以上で公演を行い、一年の約半分は海外で活動。2007年には「Newsweek 日本版」で「世界が尊敬する日本人100」に選ばれた。そんな彼らが、神奈川芸術劇場を皮切りに、約3ヶ月にわたって北海道から鹿児島まで日本列島を縦断し、31会場でライブを行う。ライブ感あふれる「が〜まる SHOW」、サイエンスフィクションを題材とした新作長編などが用意されているという。世界が認めたアーティストの、言葉に頼らず、ハートで感じるパワフルなステージをじっくり楽しんで。
—A.M.

9月9日～11日
神奈川芸術劇場 神奈川県横浜市中区山下町 281
10月7日～10日
森ノ宮ピロティホール 大阪府大阪市中央区森ノ宮中央 1-17-5
10月22日
ももちパレス 福岡県福岡市早良区百道 2-3-1
11月11日～13日
名鉄ホール 愛知県名古屋市中村区名駅 1-2-1 名鉄百貨店(本館) 10階
11月15日～20日
天王洲銀河劇場 東京都品川区東品川 2-3-16 シーフォートスクエア内 2階
ほか全国31会場公演
www.gamarjobat.com